

# こ こ 今、福島大学でしか学べないものがある

福島大学は、これまで経験したことのない災害に直面している被災地において、国立大学として地元地域からの期待に応えていく使命と地域にある存在意義を感じています。被災地や被災者を支援するという実践から、学生は座学だけでは得られなかった経験という学びの中で、悩みながら、しかし確実に大きな成長をしています。これからの復興を担う人材育成の一つの姿として、震災を踏まえた大学教育のあり方に向かって進んでいきたいと考えています。

## 1. 災害復興支援学

地域と共に歩んできた福島大学は、震災直後から地域支援を目的とする「福島大学うつくしまふくしま未来支援センター」を設立して、福島の復興のために様々な活動を行ってきました。センターでは、40人を超える専任・兼任のスタッフが日々活動しています。こうした経験を活かし、平成24年度から「災害復興支援学」を開講し、福島の復興に積極的に貢献できる人材の育成に着手しました。この授業の特徴は、センターの教員が取り組んでいる支援の姿を伝えることに重点を置いていることです。地域により、必要としている支援は異なります。現場の姿を知らなければ、効果的な支援を行うことは期待できません。これを伝えることができるのは、現場で活動している研究者だけです。この授業では、現場の姿を通して学ぶことにより、学生が新たな支援者となることを期待しています。以下、「生活支援」と「食の安全」に関する授業の内容を紹介します。

### ◆高齢化が進む集落での活性化支援◆

他大学学生・教員や福島県と協力しながら福島県内の集落活性化を支援しています。地域の良いところを聞き出し、地図や歌にして地域の住民に元気や誇りを取り戻してもらう活動や、人口減により取りやめていた行事を復活させるなどの取り組みを行っています。様々な人々を巻き込むことで、地域に新たな風を呼び込み、地域の輪を拓いています。(担当：高木亨先生)



いわき市高部集落での一コマ  
(田村健太郎氏撮影)

### ◆放射能汚染からの食と農の再生を ～生産段階から検査段階までの体系的対策～◆

福島の食と農の再生には、生産段階からの体系立った放射能対策が不可欠です。これまでは、伊達市の水稻試験栽培や、農地一枚毎の放射能計測などに取り組んできました。平成25年度はこの知見や経験を踏まえて、①コメの全袋検査をふまえた農地のリスク評価、②土壌の化学組成や放射能濃度、水文条件からのコメの移行量予測、③肥料の必要量の算出、などを検討し生産者毎にきめ細かな営農指導をするためのシステム作りにチャレンジします。(担当：石井秀樹先生)



はさがけ乾燥させる晩秋の田

★FUREうつくしまふくしま未来支援センターHP <<http://fure.net.fukushima-u.ac.jp/>>

## 2. 学生の活動について

### 「ふくしまの想いを届けよう！ 福島大学 教育支援&復興マルシェ in 文部科学省」を開催

福島大学は文部科学省と共同で、平成24年11月に文部科学省庁舎前「霞テラス中央ひろば」において、「ふくしまの想いを届けよう！福島大学 教育支援&復興マルシェ in 文部科学省」と題したイベントを開催しました。

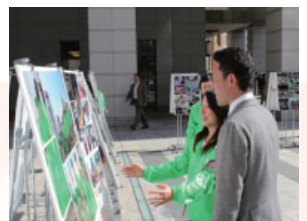
福島大学は被災地にある国立大学として、避難者・被災者への支援や福島県の復旧・復興に向けた取り組みを行っています。そういった活動を紹介することで、福島の「今」を伝え風評を払拭し、福島への観光や応援のきっかけとなることを目的に、霞ヶ関をはじめとする首都圏へ向けた広報として、「復興マルシェ」「教育支援プレゼン報告」「活動パネル展示」を行いました。

「復興マルシェ」では、生産者と消費者をつなぐ青空市(マルシェ)を開催している経済経営学類の学生が、旬を迎えたリンゴ、ラ・フランスや福島県オリジナル米「天のつづ」、ジュースなどの試食・配布を行いながら、農産物の放射性物質検査のデモンストレーションも実施し、福島の食の安全・安心への理解を求めました。

「教育支援プレゼン報告」では、避難している子どもたちの学習・遊び支援を行っている人間発達文化学類の学生や教員から、子ども支援活動やOECD東北スクールの活動について報告があり、子どもたちと接する中で「あらためて教員になりたいと思った。」と言う学生の言葉に、来場者も熱心に耳を傾けていました。また、会場内で「うつくしまふくしま未来支援センター」の活動をパネル展示し、多くの来場者が訪れ本学の活動や福島県の現状を知っていただく機会となりました。



マルシェを開催する経済経営学類の学生



子ども支援の活動を紹介する学生

## 3. 各学類で学べること

### 人間発達文化学類

教育・スポーツ・芸術などを、人間発達という視点から複合的に探究し、学校教員の養成はもちろん、さまざまな分野で活躍できる教育者を育成します。

#### 学びのキーワード

学習支援／教育探究／人間科学／特別支援／子育て支援／言語文化／地域生活文化／数理科学／スポーツ探究／生涯スポーツ／芸術文化 ほか



### 行政政策学類

法学、政治学、行政学、社会学を通して、広く学際的な観点から学び、地域社会が抱える問題を解決できる人材を育成します。

#### 学びのキーワード

基本的人権／裁判員制度／死刑制度／夫婦別姓／分権型社会／格差社会／まちづくり／市民参加／比較文化／グローバル化／共生社会／ジェンダー ほか



### 経済経営学類

経済経営リテラシー、ソリューション能力、コミュニケーション能力、キャリア教育の4つを教育の柱とし、社会の各分野で活躍できる実践力のある人材の育成します。

#### 学びのキーワード

ミクロ経済学・マクロ経済学／市場経済と政府／環境政策／金融政策／まちづくりと地域振興／景気回復／地方交付税／社会開発とNGO／経営戦略／マーケティング／ベンチャー企業／経営分析 ほか



### 共生システム理工学類

文理融合という新たな視点をベースに、理学・工学・社会科学の融合を実現。人―産業―環境の共生に関する実践的な研究と学びを通して、共生の科学・技術にアプローチできる人材を育成します。

#### 学びのキーワード

システム制御／ユニバーサルデザイン／ソフトウェア工学／人間工学／持続循環型産業／生産システム／新エネルギー／機能性材料／水・物質循環／環境地質／水・土壌浄化／生物多様性 ほか



## 4. 放射線への取り組みについて

### ◆除染の実施◆

学生がより安心・安全に生活できる環境の確保に努めるため、キャンパス内の除染を進めています。これまで、U字側溝などの高線量地点(ホットスポット)や、学生のみなさんが活動する場所(グラウンド等)を中心に、超高压洗浄や表層土除去などによる除染工事を実施しました。

#### ★主な除染実施済みの場所…

サッカー・ラグビー場、ハンドボールコート、野球場、弓道場、馬場、陸上競技場(芝生部)、テニスコート、バレーボールコート、中央広場(インターロッキング、芝生部)、野外ステージ・サークル棟周辺



表層土除去・芝張り替え

### ◆放射線への取り組みの公表◆

福島大学では、教員有志による放射線計測チームによる県内の空間放射線量率マップ(測定点約300)の作成や、うつくしまふくしま未来支援センターの中に放射線対策担当をつくり、地域の放射線問題へ対応しています。また、キャンパス内の空間線量率計測や、学生モニターの協力を得ながらの1週間の外部被ばく積算線量計測など、実態に沿った計測を続けています。福島大学の放射線への取り組みや毎週のキャンパス内放射線計測データは、HPからご覧になることができます。

#### ★福島大学放射線に関する取り組み

<<http://www.fukushima-u.ac.jp/guidance/top/torikumi-housyasen.html>>

#### ★福島大学キャンパス内及び附属学校園の放射線計測データの公開

<<http://www.fukushima-u.ac.jp/guidance/top/fukudai-housyasen.html>>

福島大学の情報はホームページでチェック！  
入試情報もホームページでチェック！

福島大学 で 検索

福島大学 入試 で 検索